

日本庭園学会ニュース

The Academic Society of Japanese Garden News

NO. 74
平成25年

案内 平成25年度全国大会・研究発表会

発行 日本庭園学会(会長 鈴木誠)
〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1
東京農業大学 地域環境学部 造園科学科
ガーデンデザイン研究室内
TEL(03)-5477-2430(鈴木誠研究室)
<http://www.soc.nii.ac.jp/asjg/>

平成25年度日本庭園学会全国大会 開催案内

平成25年度日本庭園学会全国大会を、下記のとおり開催いたします。会員のみなさまの大会への参加を、心よりお待ちしております。

<日程・内容・会場>

■日程

平成25年6月8日(土)～平成25年6月9日(日)

■内容

6/8: 研究発表会および総会

日本庭園学会賞受賞者講演等

6/9: 現地検討会

シンポジウム「茶の湯が育んだ名古屋の建築と庭園」

■会場

ウィルあいち2階特別会議室(名古屋市東区上堅杉町)

: 研究発表会および総会、シンポジウム(6/8、9)

揚輝荘庭園(名古屋市千種区法王町)ほか

: 現地検討会(6/9)

レストラン・ウィル

: 情報交換会(6/8)

<参加費>

学会員: 2000円

非会員: 4000円

※学生は、会員の場合500円、非会員の場合は1000円とします。

※大会参加費については、1日のみの参加でも上記金額を徴収します。

資料代: 1000円

情報交換会(6/8): 5000円

<問い合わせ>

■全国大会、研究発表会、総会に関する問い合わせ

栗野 隆(日本庭園学会全国大会運営担当、東京農業大学)

電話: 03-5477-2428 メール: t3awano@nodai.ac.jp

■シンポジウム、見学会に関する問い合わせ

野村勘治(日本庭園学会全国大会運営担当、野村庭園研究所)

電話: 052-931-8931 メール: nomurateien@forest.ocn.ne.jp

平成25年度 日本庭園学会全国大会 開催内容・プログラム：第1日目

<日 時> 平成25年6月8日（土）

<会 場> ウィルあいち2階特別会議室（名古屋市東区上堅杉町）

9：00 開館 受付開始

9：30～9：40 開会挨拶 鈴木誠（日本庭園学会会長）

9：40～9：50 大会プログラム説明 企画委員会全国大会運営担当

研究発表会（午前の部）

9：50～10：20

国際社会における日本庭園研究組織の現状と課題

鈴木 誠

10：20～10：50

海外の日本庭園 一茶庭、茶室の歴史と現状について

牧田 直子・吉島 由子・鈴木 誠

10：50～11：20

小堀遠州：二つの伝記、一つの伝説

マレス・エマニュエル

11：20～11：50

上原敬二『造園体系』にみる造園学における庭と庭園の位置

今江 秀史

昼食休憩／理事会・総会等

11：50～13：00 昼食休憩／理事会

13：00～14：00 総会・日本庭園学会賞授賞式

研究発表会（午後の部）

14：00～14：30

古谿荘庭園の特色を探る

栗野 隆

14：30～15：00

岡崎・南禅寺界限における庭の所有者の変遷からみる利用形態の変化

杉田そらん・今江 秀史・今西 純一

15：00～15：30

山縣有朋の作庭手法におよぼした萩の景観の影響

渡邊美保子

15：30～16：00

戦国城下町における庭園の計画的配置－特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡を例に－

藤田 若菜

16：00～16：30

旧福本藩（播磨）陣屋跡庭園の特徴と構成について

西 桂

16：30～16：40 閉会挨拶

17：00～19：00 情報交換会レストラン・ウィル

※研究発表会は、発表の本数によって、発表時間が変更する場合があります。 ■

平成25年度 日本庭園学会全国大会 開催内容・プログラム：第2日目

<日 時> 平成25年6月9日（日）

<会 場> 揚輝荘庭園、ウィルあいち2階特別会議室

シンポジウム 「茶の湯が育んだ名古屋の建築と庭園」

かつて名古屋地方は茶処で、社交のみならず冠婚葬祭も茶の湯から始まるほど、茶の湯が日々の生活に深く浸透し、有閑階級の家造り、庭造りは共に一人の茶匠にゆだねられ、結果として庭屋一如の住空間を創り出した。震災と近年の都市化により多くは失われたが、今もわずかに残る邸宅から名古屋の家造り、庭造りを知ると共に、双方の関係性を探りたい。

現地検討会

- 9:30~10:15 見学会受付
集合場所：揚輝荘庭園 北園入口前
- 10:15~11:00 揚輝荘庭園見学
- 11:00~11:15 移動
- 11:15~12:00 古川美術館分館 爲三郎記念館庭園
- 12:00~13:00 休憩・移動

シンポジウム

- 13:30~14:00 シンポジウム受付
ウィルあいち2階特別会議室
- 14:00~14:05 開会挨拶・趣旨説明
- 14:05~14:35
講演1：建築からみた名古屋の茶の湯（仮）
麓和善（名古屋工業大学大学院教授）

14:35~15:05

講演2：名古屋の茶の湯と文化（仮）
長谷義隆（中日新聞社編集局放送芸能部編集委員）

15:05~15:35

講演3：庭園からみた名古屋の茶の湯（仮）
野村勘治（野村庭園研究所代表）

15:35~15:45 休憩

15:45~16:30

鼎談：座長・岡田憲久（名古屋造形大学教授）
および講演者

16:20~16:30 閉会挨拶

平成25年度 日本庭園学会全国大会研究発表会の概要

■鈴木 誠（東京農業大学造園科学科）

「国際社会における日本庭園研究組織の現状と課題」

概要：2012年10月、日本庭園学会と北米日本庭園協会（North American Japanese Garden Association）は連携協力関係を締結した。このNAJGAは準備期間3年ほどをかけ、2012年正式に発足した。一方、ヨーロッパにおいては1993年から英国に本拠をおく日本庭園協会（The Japanese Garden Society）が活動しており、すでに20周年を迎えて、記念巡回展「vision of paradise 楽園への憧憬 the japanese garden in the uk」（2010 - 2011）開催と、同名の冊子を刊行（2011）している。欧米の二つの協会の活動内容をレビューしつつ、国際社会における今後の日本庭園研究組織のあり方を展望する。

■牧田 直子・吉島 由子・鈴木 誠（東京農業大学造園科学科）

「海外の日本庭園 一茶庭、茶室の歴史と現状について」

概要：本研究では、海外にある茶室について、25カ国、79ヶ所を確認した。国別でもっとも多いのは米国で28件35%である。79か所中、海外の日本庭園内に造られたものは39件、約50%を占めている。設置経緯がわかった25ヶ所の茶室のうち17か所が日本からの寄贈であった。79ヶ所中7ヶ所は露地門、待合、蹲、飛石、沓脱石と露地の

要素を完備している。一方海外の日本庭園全体からみると、茶室39ヶ所、露地の要素7ヶ所は、423件の海外の日本庭園の母数からすると割合としては少ないことがわかる。

■マレス・エマニュエル（奈良文化財研究所文化遺産部）

「小堀遠州：二つの伝記、一つの伝説」

概要：本発表は小堀遠州と重森三玲と森蘊という三人の作庭家についてである。とりわけ、小堀遠州（1579年 - 1647年）という日本庭園史においてもっとも有名な作庭家の人となりにより焦点を当てる。生前にすでに才能が認められ、広く活躍したが、今は伝説化して、全国に小堀遠州作だと言われている庭園がある。いずれにせよ、日本の近世を理解する上では欠かせない存在である。しかし、このように秘密に包まれている小堀遠州という歴史的人物は、重森三玲（1896年 - 1975年）と森蘊（1905年 - 1988年）が書いた伝記を比較する口実である。要するに、20世紀の研究者であり、作庭家でもあった三玲と森がどのように小堀遠州の業績を評価し、分析していたことと、どのように日本庭園史を理解していたのかを探求することが、本発表の目的である。

■今江 秀史（京都市文化財保護課）

『造園体系』にみる造園学における庭と庭園の位置

概要：造園学において最も庭と庭園について論及した人

物の一人である上原敬二は、代表的著作である『造園体系（全八巻）』の中で、庭園を造園学の一分野と位置付けている。その一方で造園学は近代を契機としており、近代以前の造園史は庭園史になると記している。造園学が近代以降に成立した思惟であれば、どうして造園学が前時代より存続している庭・庭園をその一分野として包括することになるのか。『造園体系』を『造園大辞典』や『庭園入門講座』と併せて精読すると、上原によって造園学の一分野と位置付けられている庭園は、実生活における庭と庭園から公共・緑地といった観点から取捨選択された一部であると明示されており、個人・実生活の場という観点でいえば庭園学で論及される余地は相当程度あることが示唆される。

■栗野 隆（東京農業大学造園科学科）

「古谿荘庭園の特色を探る」

概要：風光明媚で気候も温暖な静岡では、明治20年代以降の鉄道網の発展とともに、御殿場、熱海、沼津などの地域が近代別荘地として開発されていった。皇族・華族・政府高官・実業家らは、保養やレクリエーションのため、この静岡の地に多くの別荘を造営した。宮内大臣を歴任した田中光頭（1843～1939）の古谿荘が所在する富士川という地域も、富士山を望んで駿河湾に面した、別荘造営にふさわしい土地である。本発表ではこの古谿荘庭園について、立地、構成・意匠、技術・材料に関する特色を、わが国の近代庭園と比較検討しながら、うきぼりにしてみたいと思う。

■杉田 そらん（京都大学大学院農学研究科）・今江秀史（京都市文化財保護課）・今西 純一（京都大学大学院農学研究科）

「岡崎・南禅寺界限における庭の所有者の変遷からみる利用形態の変化」

概要：京都府京都市左京区の岡崎・南禅寺界限に展開する庭の所有者の変遷については『岡崎・南禅寺界限の庭の調査』に、旧土地台帳および登記簿謄本にもとづいて記述されてある。本研究では同報告書に記述された内容と当時の地図資料から、近代から現在に至る過程で、岡崎・南禅寺界限に所在する庭の所有者とそれに伴う利用機能の変化に関して分析することで、当地域に数多く展開する歴史的庭園の今後の保存管理について考察する。

■渡邊 美保子（職藝学院環境職藝科）

「山縣有朋の作庭手法におよぼした萩の景観の影響」

概要：明治・大正期の陸軍軍人、政治家である山縣有朋は、邸宅を構えるごとに自らデザインの指揮をとり築庭した（山縣三名園と称される椿山荘庭園、無鄰菴庭園、古稀庵庭園は、代表例である）。山縣以前の日本庭園には見られない独自の自然主義的な作庭観が何に影響されたものなのか、これまで明らかにされていない。演者の調査の結果、山縣の作庭手法には、故郷である山口県萩市の風景の影響が認められたので報告する。

■藤田 若菜（福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館）

「戦国城下町における庭園の計画的配置—特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡を例に—」

概要：特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡にて出土が報告された庭園遺構は、約20箇所に及ぶ。本遺跡は、北陸一国をおさめた戦国武将の城下町跡であり、地方にあった戦国城下町の多様な作庭を伝える好例と言える。本研究では、それらの庭園のうち、主に当主関連屋敷にて確認された園池が配された庭園と、家臣や職人の屋敷にて確認された平庭を取り上げ、先行研究が乏しかった、戦国城下町における庭園配置の計画性について考察する。

■西 桂（兵庫県立淡路景観園芸学校）

「旧福本藩（播磨）陣屋跡庭園の特徴と構成について」

概要：旧福本藩は、池田政道が寛文2年（1662）に播磨に所領した1万石の小藩である。この福本の地に構えた陣屋の配置が描かれた絵図が、4点も残されており、そこには藩主の居館および藩士の屋敷図の他に、居館の御殿南側には庭園図が描かれている。現在御殿はじめ建築群は残されていないが、庭園遺構のみが往時の姿で見ることが出来る。この旧福本藩陣屋跡庭園の保存整備の為に、その特徴と庭園構成について考察する。

平成25年度 日本庭園学会全国大会 会場等案内

■大会1日目・2日目

<日時> 平成25年6月8日：総会・研究発表会、6月9日：シンポジウム

<会場> ウィルあいち2階特別会議室（名古屋市東区上堅杉町）



【公共交通機関をご利用の場合】

- ①地下鉄名城線「市役所」駅2番出口 東へ徒歩約10分
- ②名鉄瀬戸線「東大手」駅 南へ徒歩約8分
- ③基幹バス「市役所」下車 東へ徒歩約10分
- ④市バス幹幹1「市政資料館南」下車 北へ徒歩約5分

【名古屋空港からのアクセス方法】

- ①鉄道（約1時間）
名古屋空港（名鉄バス）→名鉄西春駅（名鉄犬山線乗換）→名鉄名古屋駅（地下鉄東山線乗換）→栄（地下鉄名城線乗換）→市役所下車（徒歩10分）
- ②高速バス（約50分）
名古屋空港（あおい交通）→栄（地下鉄名城線乗換）→市役所下車（徒歩10分）
- ③車（約20分）
名古屋空港→幸田右折→豊山南入口→（名古屋高速11号小牧線）→（1号橋梁）→黒川出口→金城橋左折→ウィルあいち

【中部国際空港（セントレア）からのアクセス方法】

- ①鉄道（約1時間）
中部国際空港（名鉄）→金山（地下鉄名城線乗換）→市役所下車（徒歩10分）
- ②車（約1時間）
中部国際空港→セントレアライン→知多半島道路→名古屋高速1号橋梁→黒川出口→金城橋左折→ウィルあいち

ウィルあいち 愛知県女性総合センター
 〒461-0016 名古屋市東区上堅杉町1番地
 指定管理者 コンプレ・愛知グループ
 TEL: (052)962-2511 FAX: (052)962-2567
 http://www.will.pref.aichi.jp/

開館時間 9:00～21:00
 休館日 年末年始
 施設・設備の点検のため月1回ほどご利用できない日（点検日）がございますので、お申込みの際、事前にお確かめください。
 駐車場 7:00～22:00（入庫は21:00まで）
 駐車料金：30分につき170円

■大会2日目

<日時> 平成25年6月9日(日): 現地検討会

<集合場所> 揚輝荘庭園 北園入口前

揚輝荘 案内

〒464-0057 名古屋市千種区法王町2-5-21、電話: 052-759-4450

・地下鉄 東山線 覚王山駅1番出口より 徒歩約10分

古川美術館 分館 爲三郎記念館 案内

〒464-0066 名古屋市千種区池下町2丁目50番地(古川美術館)、電話: 052-763-1991

・地下鉄東山線 池下駅1番出口より東へ徒歩5分 または

・地下鉄東山線 覚王山駅1番出口より西へ徒歩10分



揚輝荘庭園・古川美術館分館爲三郎記念館位置図



揚輝荘庭園案内図



古川美術館分館爲三郎記念館案内図

6月9日（日）の留意点

※爲三郎記念館からウィルあいちへのアクセス（約30分）

池下駅（地下鉄東山線）→栄駅（地下鉄名城線乗換）→市役所駅2番出口（徒歩10分）

※昼食について：「ウィルあいち」周辺は飲食店が少ないため、昼食は池下駅または覚王山駅周辺で取られることお勧めします。

現地説明

■揚輝荘

松坂屋百貨店の初代社長・伊藤次郎左衛門祐民の別荘として、覚王山日暹寺（現在の覚王山日泰寺）に隣接する約1万坪（35,000平方メートル）の森を拓いて築かれた。1918年（大正7年）に最初の建物が移築され、修学院離宮を参考にした池泉回遊式庭園が造られるなどして、最終的に完成した昭和12-14年頃には移築・新築された30数棟があったという。大正から昭和初期にかけては皇族や華族、政治家や著名人の他に外国人も多数訪れ、国内からの寄宿生に加えて留学生の受け入れも行っていた。

1945年（昭和20年）3月24日に空襲を受けて建造物の多くが焼失。また戦中は日本軍に、戦後は米軍に接収され、その後は松坂屋独身寮として使用された。敷地の多くが開発されて庭園も南北に分断されたが、数棟の貴重な建物と庭園が残されている。2003年（平成15年）から特定非営利活動法人揚輝荘の会が管理を行っており、2006年（平成18年）度末には伊藤家から土地建物が名古屋市に寄贈、2008年（平成20年）5月に市の有形文化財に指定された。

（ウィキペディア <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%8F%9A%E8%BC%9D%E8%8D%98> より抜粋）

■古川美術館別館 爲三郎記念館

「爲三郎記念館」はヘラルドグループ創業者であり、103歳の天寿を全うするまで総帥として事業を率いた古川為三郎翁の生前の邸宅である。当初は住宅ではなく料理旅館「向陽館」の別館として昭和9年に上棟された。数寄の気分が全域に渡って横溢する茶人好みの世界であり、別館は特別な賓客をもてなす為のものだったと考えられる。昭和20年古川為三郎翁の所有となり、一度戦災を被った部分に手を加えたり増築もあったようだが、「向陽館」以来の建築は以後、翁が永眠される平成5年まで、ほぼ創建時の姿のままに維持されたといつてよい。邸宅は平成5年に財団法人古川会に寄贈され、一般公開に先立って建築と庭に整備改造の手が加えられ平成7年11月3日「爲三郎記念館」と命名され、古川美術館の別館として公開された。（敷地面積1,680㎡、建築面積母屋「爲春亭」約350㎡、茶室「知足庵」約15㎡）。

（『爲三郎記念館の建築と庭園』野村勘治、中部庭園同好会 平成25年1月例会資料より抜粋）

【会費納入のお願い】

学会費の納入額をご確認のうえ、納入のほどよろしくお願ひします。また、過年度滞納の方は併せて納入のほどよろしくお願ひします。

協力者：栗野隆、北森さやか

日本庭園学会広報委員会

今江秀史、加藤友規

〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116

京都造形芸術大学日本庭園研究センター気付

日本庭園学会関西支部事務局 FAX(075)791-9342